

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	消防用施設整備事業	会計	一般会計	事業No.	648	施策順No.	41-033
		事業種別	政策・その他	予算科目	9-1-3-11-5		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	危機管理・交通安全対策室		
施策	41 災害対策の推進		事業期間	開始	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市内に設置されている貯水槽・警鐘楼・消火栓						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		予想される貯水槽の修繕数		4	4	1	3		
		予想される消火栓表示数		85	85	210	0		
意図		消防用施設が維持確保される							
対象をどう変えるか		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		改修実施した施設数÷計画数(貯水槽)	100	100	100	100	100	100	A
		改修実施した施設数÷計画数(消火栓)	100	100	100	0	210	0	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	防火貯水槽補修及び消火栓ライン表示を実施								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 防火水槽・警鐘楼・消火栓維持管理。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 防火貯水槽補修工事(松尾久井貯水有蓋化工事) 2 消火栓表示業務委託 3 警鐘楼撤去工事 (耐震性貯水100t、40t×2については、消防体制強化整備事業に記載)	1 改修防火貯水槽数 2 消火栓表示数 3 撤去数	1 1基 2 210基 3 3基
23年度実施計画	1 防火貯水槽補修工事 2 消火栓表示業務委託 3 防火水槽撤去工事 4 ホース乾燥塔撤去工事(南信濃八重河内詰所既存ホース乾燥塔1基) *南信濃詰所ホース乾燥塔工事は消防体制強化事業に記載	1 改修する防火貯水槽の数 2 消火栓表示する数 3 撤去する数 4 撤去する数	1 3基 2 0基 3 0基 4 2基

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,939	1,799	1,235		
計(A)		1,939	1,799	1,235		
正規職員所要時間			20			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			72			
トータルコスト A+B			1,871			

4 事業に対する市民や議会の意見

耐震性貯水の要望はある。公設貯水に限らず私有地に存する貯水等の漏水対策やさまざまな修繕要望は継続的にある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞り者、財産の災害や火災の被害を軽減する	施策の成果指標又はムトス指標	市民が災害にそなえている割合(%) 火災発生件数(件)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	常備消防の先着活動において、消火栓の明示は初期消火の生命線であり、ライン表示作業を継続してきた。貯水の有蓋化工事等着実な進展を市街地中心に実施した。		
	後期に向けた課題	飯田広域消防との協議によりさらに適切な施工をするともに、市有でない貯水槽等の修理修繕を公費でできないことへの理解を所有者及び地元継続していく。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	広域消防及び地元協議により貯水修繕を行い地域の満足度にも配慮してきた。		
	後期に向けた課題	市有以外の貯水槽の修繕要望への対応。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	飯田広域消防と地元協議による無駄・ムリ・むらをなくす努力。		
	後期に向けた課題	貯水修繕の工法について(防水塗装から防水シート張り)研究している。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	適切。		
	後期に向けた課題	公設以外の修繕や収用などが困難な水利施設維持管理を今後どのように行っていくかは問題である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①主体は地域住民等及び関係団体であり、主に市民、特に水利周辺の地域住民への安全安心を守る役割を果たした。 ②主体が役割を発揮するために、地元説明等関係部署と協力して十分な理解を得られるように配慮した。		
	後期に向けた課題	公設以外の要望に関して十分な理解を求めていくこと。		
全体を通じて	4年間の振り返り	事業として妥当。最終年度に貯水修繕を消火栓ライン表示に振り替えたことにより広域消防の活動支援も行うことができた。		
	後期に向けた課題	公設以外の貯水槽の住民からの強い修繕要望などに対してどのような対応をしていくか。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------